Point 3 子どもの成長を支える環境づくりの視点

視点1 体験の内容
どのような体験をさせるのか？

視点2 体験の時期
いつ体験させるのか？

視点3 体験の質
どのように体験させるのか？

視点4 体験を通じた人とのかかわり
体験を通してどのように関わるのか？



子どもの成長を支える環境づくりを考える際、それは子どもたちが夢中になって取り組める活動なのか、それで子どもたちが心を動かされるような体験（楽しい、うれしい、感動、つらい、くやしい、負けたくない等）ができるのか、そのことを通じて子どもたちがどういった気づきや学びが得られるのかなど、**体験の質**に目を向けることが大切です。

質の高い体験をさせるためには、子どもに体験をただ「やらせる」のではなく、「やろう」という気持ちを引き出すことが必要です。**主体的な学び**ほど、子どもの成長にとって大きな糧になるものはありません。そうした主体的な学びの姿勢を促すためには、体験を通じて何かを「教える（伝える）」よりも、「分かる（気づく）」ことができる機会を設けることが大切です。自分の力で得た学びは、教えられて得た学びに比べ、喜びや充実感も大きく、さらに知りたい、学びたいという意欲を喚起することにもつながります。

また、**子どもの成長を支える環境**では、親や先生、近所の人といった大人とのかかわりも重要な要素の一つになります。そのため、子どものまわりにいる大人は、子どもたちに体験の場や機会を提供するだけでなく、温かく見守りつつも、様々な体験を通じて子どもを褒めたり、励ましたり、悩みを聞いたり、時には叱ったりしながらうまく関わり合いをもつようにし、心の成長を促す働きかけを積極的に行っていくことも必要になります。

今後、子どもの成長を支える環境づくりを考える際は、どの時期に、どういった体験をさせるのかということだけではなく、どのように体験させるのか、体験を通じて大人がどう関わるのかといった**体験の質**や**体験を通じたかかわり**についても目を向けることが大切です。







子どもたちの体験活動について「もっと知りたい！」をサポートします！

国立青少年教育振興機構では、子どもたちの体験活動についての調査研究を行っており、普及啓発リーフレット、冊子の他YouTube等で分かりやすく、楽しく情報発信を行っています。

「体験活動が大事だということは知っているけれど、もっと知りたい！」という方、是非、当機構が発信する情報をご活用ください。



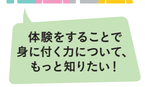
子どもたちの体験の機会が失われていることや、子どもたちを取り巻く環境について、もっと知りたい！

子どもたちの成長を支える体験のチカラ
（青少年教育研究センターYouTubeチャンネルより）

誰にでも分かりやすく解説！導入編としてどうぞ

体験活動ってなに?子どもたちにとってどんな影響があるの?
子どもたちの体験不足が指摘される中で、注目が集まっている体験活動。その意義や効果について、文教大学の青山鉄兵准教授が解説します。





体験をすることで身に付く力について、もっと知りたい！

「社会を生き抜く力」リーフレット

変化の激しい社会に求められる「社会を生き抜く力」を「へこたれない力」「意欲」「自己肯定感」「コミュニケーション力」の4つの「社会を生き抜く資質・能力」とし、子どもの頃の体験との関係性を明らかにしています。





身近でできる体験活動を、もっと知りたい！

『体験・遊びナビゲーター1・2・3』

自然の中で遊べる楽しい情報が満載！

自然の中での体験や遊びを紹介した冊子で、「遊び」「冒険」「挑戦」したくなるようなたくさんの活動を紹介している他、安全に楽しむためのポイントやコツ、親子でも取り組める活動も紹介しています。



家庭型体験活動紹介チャンネル「体験ちゃん」

さあ、今日は何を体験しようかな?

家族でチャレンジできる体験活動を、楽しい仲間たちが動画で紹介しています!自然体験、文化体験、生活の知恵、スポーツ…沢山の体験がここには溢れています!

国立青少年教育施設が運営するYouTubeチャンネル

全国各地でできる体験活動を、行ったつもりで体験できるかも?!

当機構が運営する全国の国立青少年教育施設では、各施設ならでの体験活動や交流活動の様子など、様々な動画を配信しています。様々な地域での活動を観ていたら、思わず行ってみたくなってしまうかも?!お気に入りの施設を見つけたら、是非チャンネル登録もお願いします♪

SNSによる情報発信

最新の調査結果やイベント情報など、青少年教育研究センターの最新情報を発信しています。是非、ご覧ください。

FacebookページＵＲＬ：https://www.facebook.com/rcyeniye/

青少年の体験活動等の研究成果に関するお問合せは下記までご連絡ください。

National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
青少年教育研究センター
https://www.niye.go.jp　TEL 03-6407-7741

発達段階に応じた望ましい体験の在り方に関する調査研究 ～「体験カリキュラム」の構築に向けて～（中間まとめ）（令和2年3月）発行をもとに作成
青少年機構
令和6年3月発行



子どもの成長を支える20の体験

子どものために私たち大人ができることは？





体験の風をおこそう

National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

私たち大人にできることは?

多様な体験を土台とした子どもの成長を支える環境をつくること

将来、社会を生き抜く資質・能力を身につけた大人になるためには、子どもの頃から様々な活動に挑戦し、多様な経験を積み重ねていくことが必要です。そのためには、周りにいる大人が、子どもの生活環境の中に意図的、計画的に多様な体験の場や機会を作っていくことが大切になります。

Point 1 「多様な体験を土台とした子どもの成長」を支える環境とは?

青少年に対し、社会的自立に向けた健やかな成長を促していくためには、家庭や学校、地域といった様々な場面で発達段階に応じた多様な体験を提供し、それらの経験を通じて心身ともに健全な人間形成を支援していくことが大切です。

国立青少年教育振興機構では、「体験活動を通じた青少年の自立」を目指し、青少年が社会的に自立していくために必要な子どもの頃の体験や体験によってはぐくまれる資質・能力の関係について調査研究を重ねてきました。そして、これまでの研究成果を基に、自立した大人へと成長する過程において大切になる子どもの頃の体験と、将来、社会を生き抜くために必要となる資質・能力の関係を体系的に整理し、今後、子どもの生活環境の中に意図的、計画的に多様な体験の場や機会を作っていく際の指標になるよう**発達段階に応じた望ましい体験の在り方の枠組み**として**「子どもの成長を支える20の体験」**と**「体験を通して育成したい12の資質・能力」**を取りまとめました。

多様な体験を土台とした子どもの成長を支える環境

体験を通じて育成したい12の資質・能力

誕　生 → 社会人

自己肯定感 / 協調性 / 積極性 / コミュニケーション力 / 礼儀作法 / 健康管理 / 勤労観 / 道徳観 / 学ぶ力 / やり抜く力 / 自立心 / 公共心



子どもの成長を支える20の体験

体験活動

自然体験
キャンプ、登山、カヌー、サイクリング、スキー、クラフト等

集団活動
子ども会、委員会、係、クラブ　等

地域行事
祭り、スポーツ大会、音楽祭、交流イベント等

社会貢献
清掃活動、募金活動、慰問活動、環境保全活動、地域おこし、まちづくり　等

職業体験
農林漁業体験、インターンシップ、職業体験型テーマパーク等

文化芸術体験
音楽、絵画、演劇、書道、舞踊、茶道、華道等

科学体験
科学実験・工作、ロボット制作、プログラミング　等

国際交流体験
国際交流事業、ホームステイ、イングリッシュキャンプ等

生活習慣

規則正しい生活
早寝、早起き、朝ごはん、洗面、歯磨き、入浴　等

遊び
おにごっこ、かくれんぼ、ブランコ、滑り台、おままごと、ごっこ遊び　等

お手伝い
買い物、料理、掃除、ゴミ出し、洗濯、くつ磨き　等

家族行事
誕生日のお祝い、お墓参り、大掃除、季節行事　等

運動・スポーツ
スポーツ少年団、スポーツクラブ、部活動　等

読書
読み聞かせ、絵本、小説、まんが、新聞、雑誌　等

動植物とのふれあい
生き物の飼育、植物の栽培、自然観察　等

探究学習
調べ学習、体験学習、課題研究、自由研究、自学自習　等

人とのかかわり

家族とのかかわり
家族にほめられる、親に叱られる、親に勉強をみてもらう、家族と遊ぶ、親にしつけられる、親と将来の話をする、家族の看病をする、兄弟の世話をする等

友達※とのかかわり
※同級生、先輩、後輩等
友達にほめられる、友達に注意される、友達から認められる、友達から尊敬される、友達と遊ぶ、友達とけんかする　等

先生※とのかかわり
※教師、指導者等
先生にほめられる、先生に叱られる、先生に相談する、先生に認められる、先生に仕事を任される、先生と遊ぶ　等

地域※の人とのかかわり
※保護者や先生以外の大人等
地域の人にほめられる、地域の人に注意される、地域の人に相談する、地域の人に認められる、地域の人に遊んでもらう、地域の人に勉強をみてもらう　等

Point 2 “体験する”ということの考え方

子どもの頃に多様な体験をすることは、子どもの成長にとって大きな意味があります。しかし、いくら様々な体験をしても、ただ体験させられるだけでは得られる成果が少なかったり、意味を成さなかったりすることもあります。子どもの成長を支える体験として**20の体験**を示しましたが、これらの体験を子どもにさせれば、社会を生き抜くために必要な資質・能力が自然と身につくということではありません。

“体験する”ということは、何かしらの活動（自然体験、遊び、学習等）や行為（人助けをする、けんかする等）を“すること”だけを意味するのではなく、その活動や行為を通じて得られる感情（うれしい、感動、悲しい、悔しい等）や気づき（分かる、発見する等）、学び（理解する、できるようになる等）など、いわゆる**体験の質**に関わる部分も含まれています。また、“体験する”ということには、自らが動いたり働きかけたりする能動的な体験だけではなく、他者からの働きかけ（褒められる、叱られる等）など受動的な体験も含まれてきます。

つまり、**“体験する”**ということは、**何かしらの活動や行為を能動的又は受動的に行い、それを通じて得られる感情や気づき、学びを含んだ一連の流れを表している**といえます。そして、**こうした体験を通じて得られる感情や気づき、学びこそが、子どもの成長を促す大きな糧になる**と考えられているのです。



